

玉川上水みどりといきもの会議 第1回シンポジウム

2021年7月11日

玉川上水の林と野鳥



井の頭 自然の会

鈴木浩克

- 1) 玉川上水でみられる野鳥たち
- 2) 樹木と野鳥の関係
- 3) 玉川上水周辺の過去と現在

野鳥の季節移動による分類（渡り）

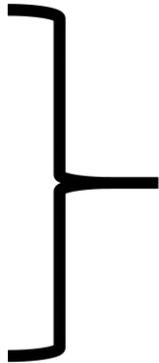
夏鳥

冬鳥

旅鳥

漂鳥.....

留鳥.....



海を渡る海外旅行

海は渡らない国内旅行

一年中みられる

夏鳥



冬鳥



旅鳥

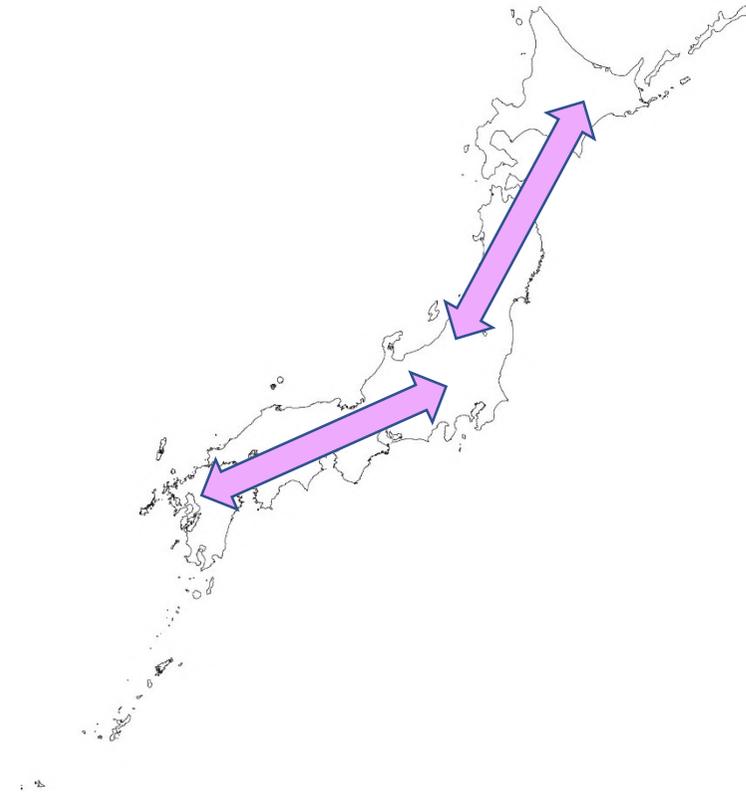


漂鳥・・・日本国内を移動する鳥

漂鳥 1・・・標高移動タイプ



漂鳥 2・・・南北移動タイプ



留鳥・・・一年中みられる鳥



ヒヨドリ



スズメ



シジュウカラ



カルガモ

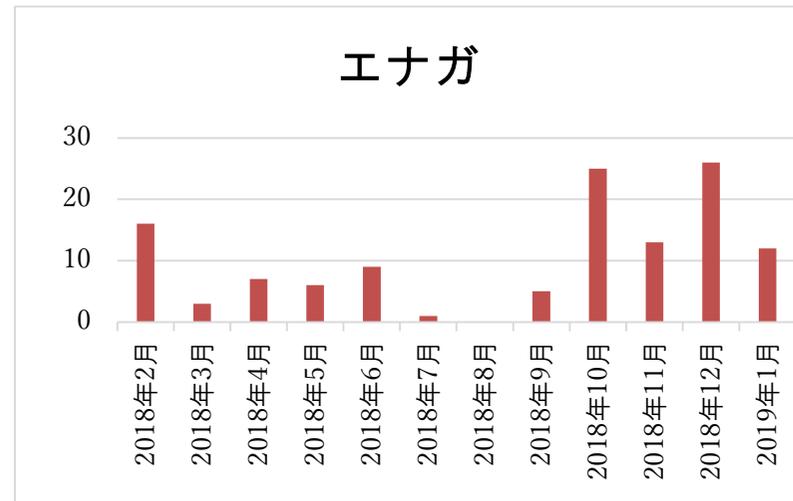
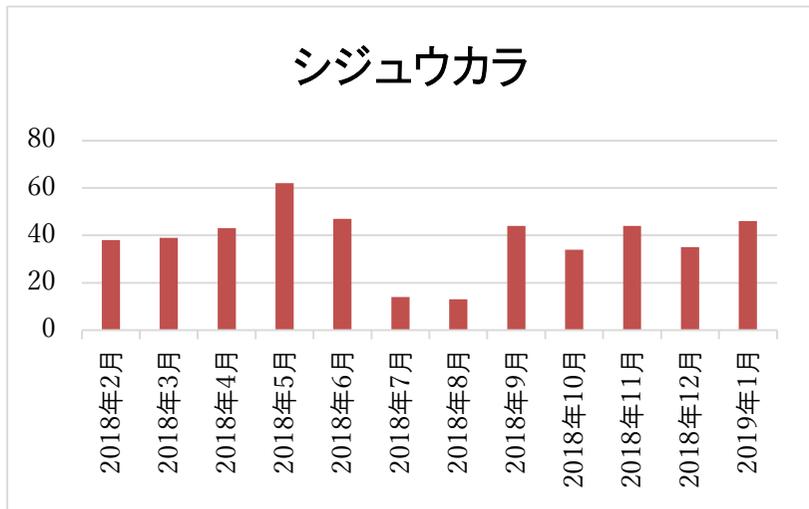
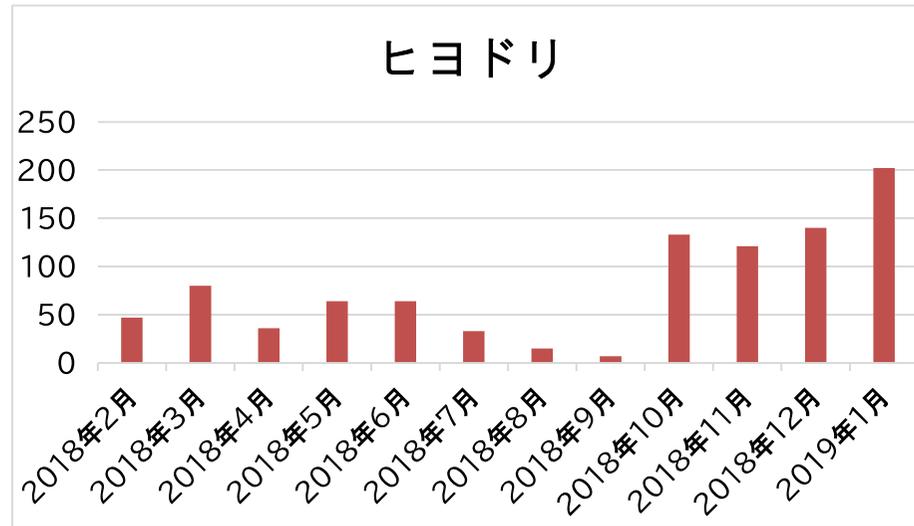


ムクドリ



ハシブトガラス

留鳥と言うけれど、実は移動している



井の頭自然の会 ラインセンサスより

玉川上水でみられる鳥たち
(留鳥以外)

玉川上水周辺で繁殖する夏鳥



ツバメ



ツミ

毎年必ず、玉川上水を通過していく夏鳥



オオルリ 雄



キビタキ 雄



メボソムシクイ



サンコウチョウ



アオバズク 絶滅危惧 IB 類

玉川上水の連続する緑地帯は夏鳥の通り道 (GoogleMap から)



数年一度、玉川上水を通過していく希少な夏鳥



ブッポウソウ 絶滅危惧 IA 類 (2009 年、2017 年、2020 年)



ヨウカ 絶滅危惧 IA 類 (2012 年 9 月)



ミゾゴイ 絶滅危惧Ⅱ類 (2009年4月、2012年4月)

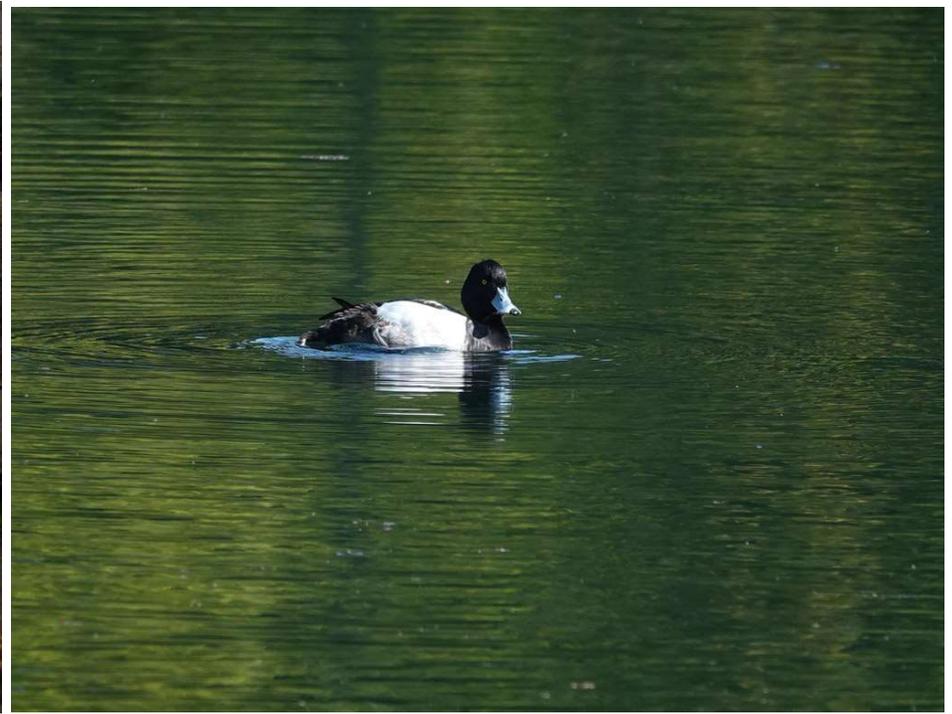
冬鳥・・・秋に渡ってきて日本で越冬する。繁殖はロシア大陸



ジョウビタキ 雄



ツグミ



カモの仲間（カルガモとオシドリ以外）

玉川上水はカルガモ以外のカモは観られない。

旅鳥・・・日本を通り過ぎるだけの鳥



エゾビタキ



ヒレンジャク

漂鳥・・・日本国内で繁殖地と越冬地を移動する

→ 1 : 標高移動型（標高の高いところで繁殖し、冬は平地に降りて越冬）



ルビタキ



クロジ

→ 2 : 南北移動型（北で繁殖し、冬は南に移動する。移動は国内）



アカハラ（亜種オオアカハラ）

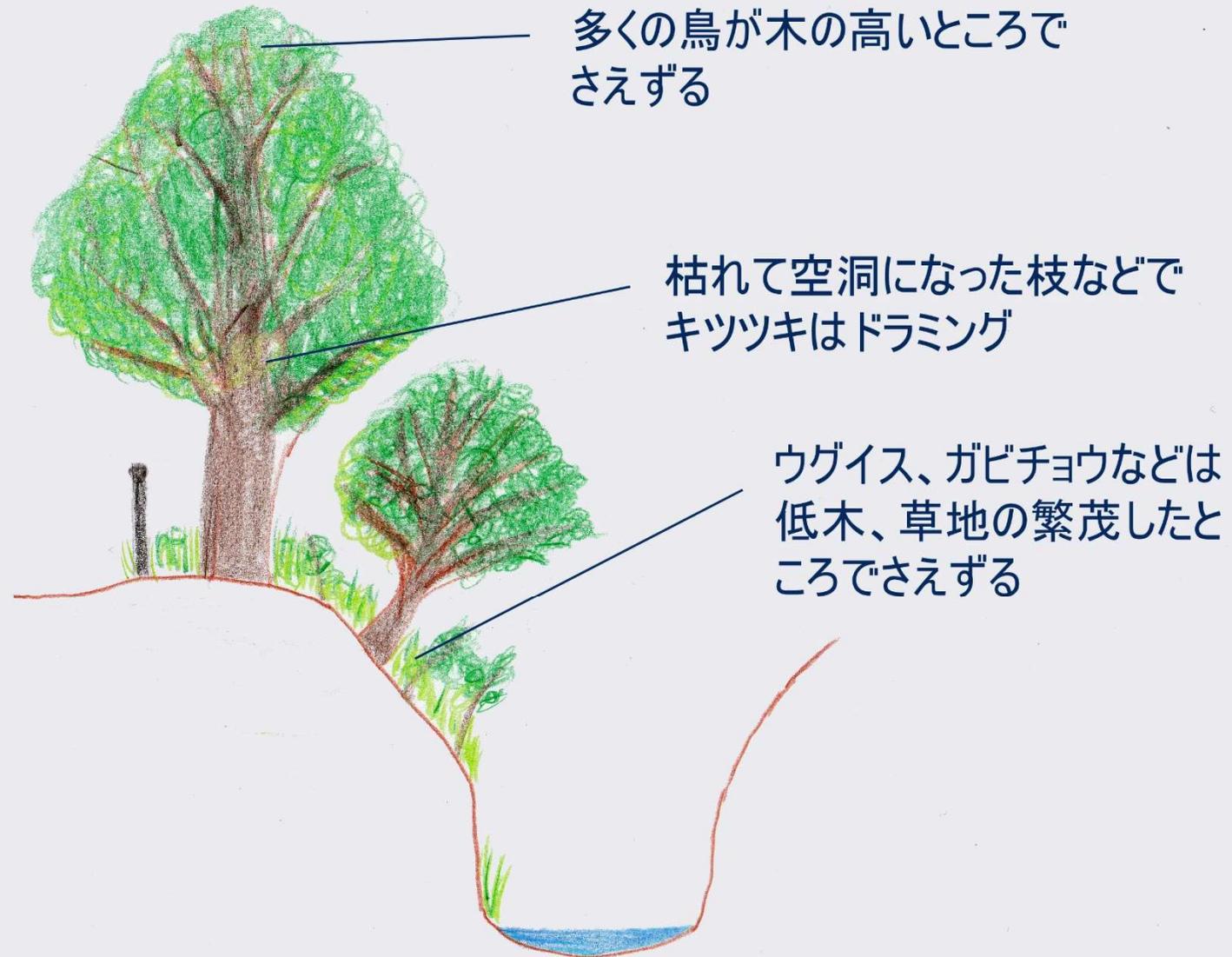


アオジ

野鳥と樹木の関係

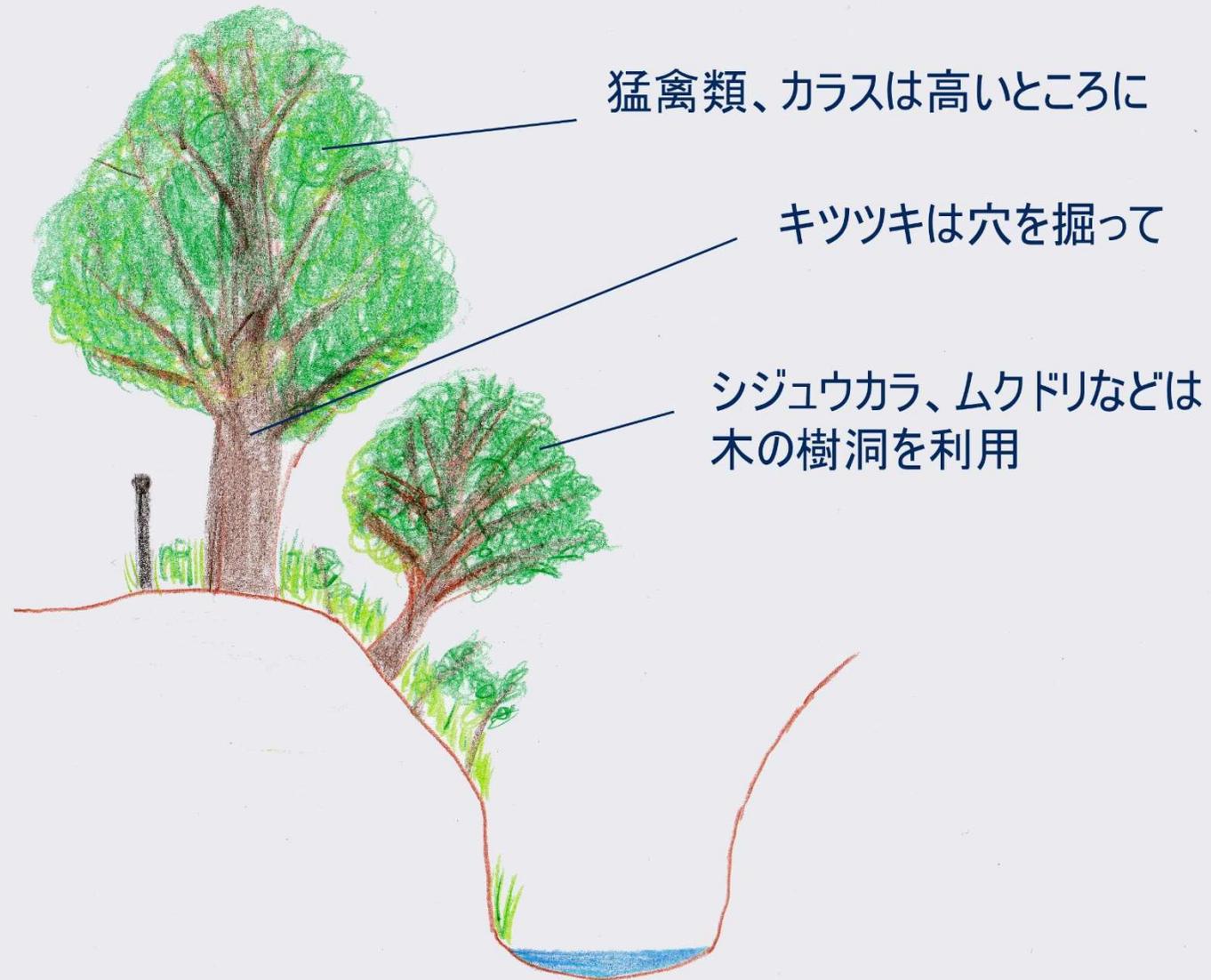


野鳥と樹木の関係 1: 木は鳥がさえずる場所(求婚、縄張り宣言)



野鳥と樹木の関係

2: 木は鳥が営巣する場所





ハシブトガラス



メジロの巣



オナガの巣



エナガの巣

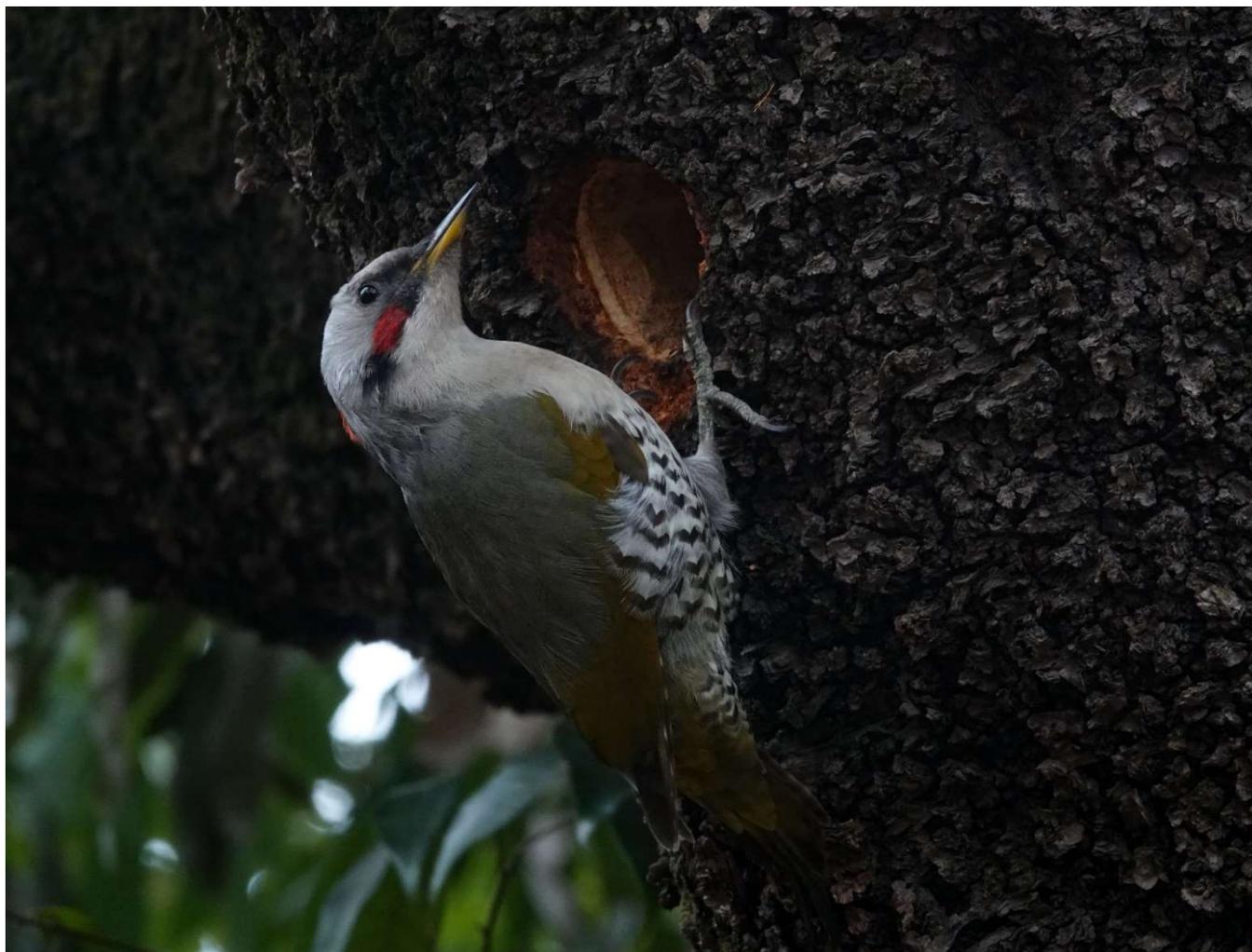


シジュウカラ、ヤマガラ、ムクドリ、ホンセイインコなどは樹洞を利用

キツツキ類の巣



コゲラは枯木もしくは枯れ始めた木に巣穴を掘る。



アオゲラは生木でも掘る。



アオゲラはいくつもの巣穴を掘る

その穴がやがて大きくなり



ムササビが利用したり



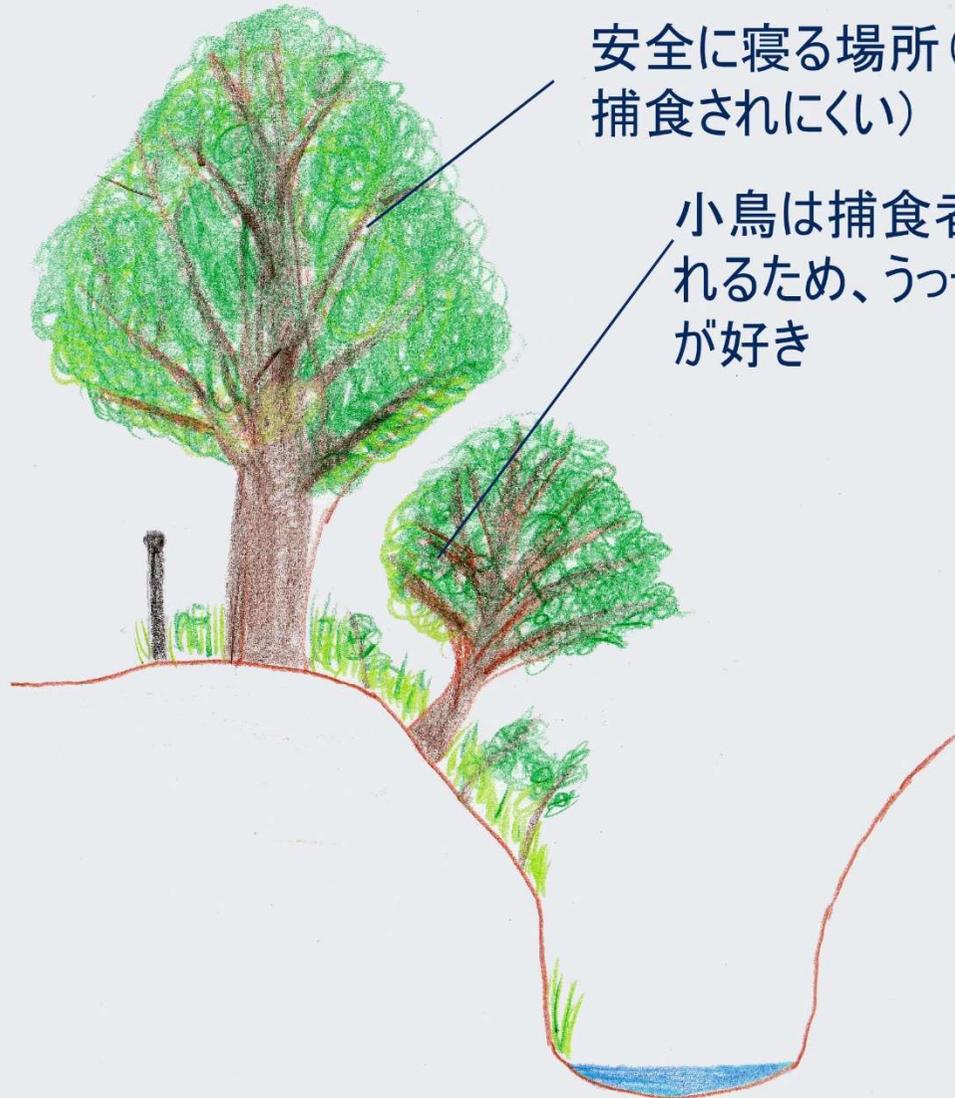
オオコノハズクが利用したり



オシドリが利用したりする

野鳥と樹木の関係

3: 木は鳥が寝る場所、隠れる場所

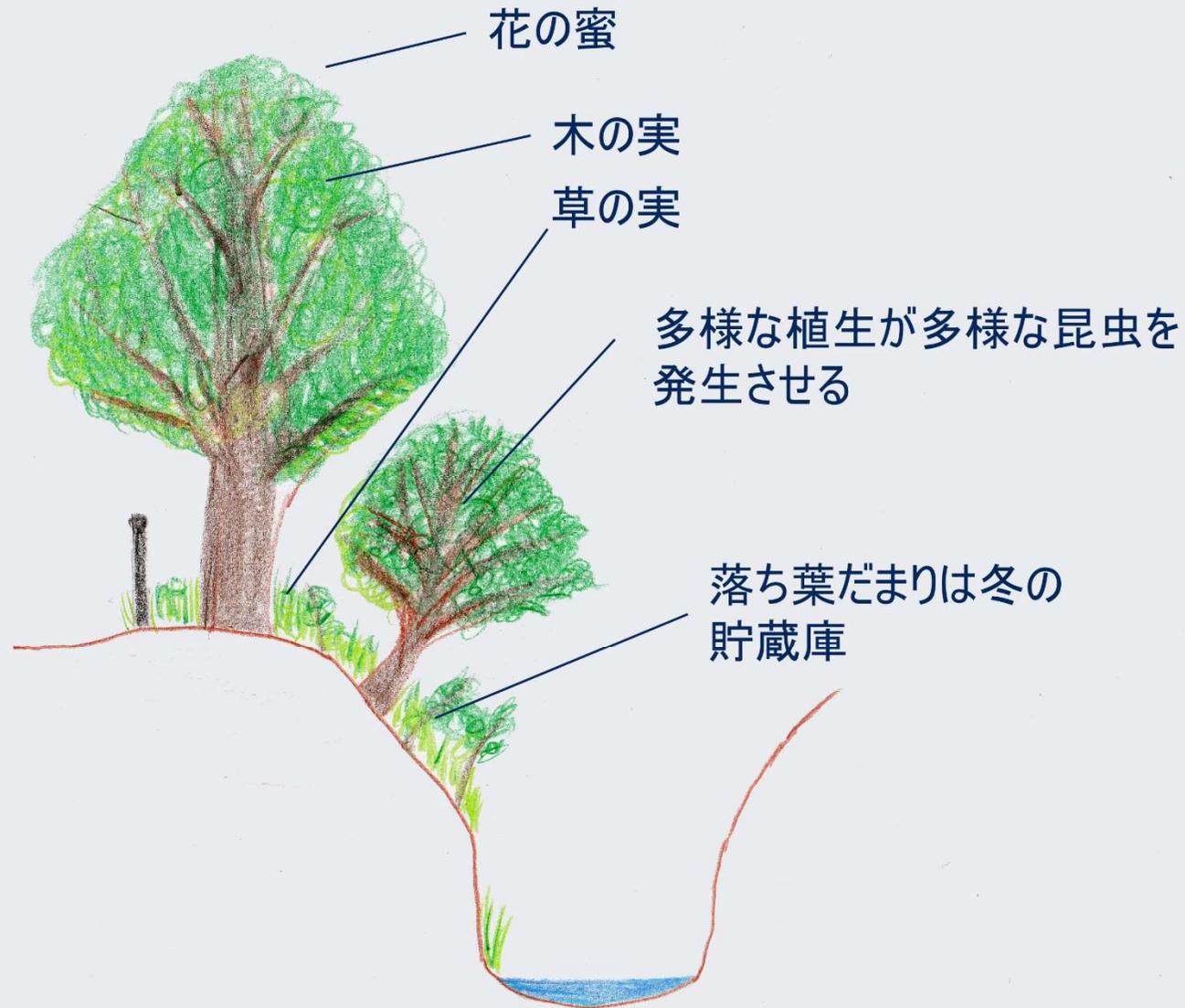


安全に寝る場所(哺乳類に捕食されにくい)

小鳥は捕食者から逃げ、隠れるため、うっそうとしたところが好き

野鳥と樹木の関係

4: 樹林帯は野鳥の食糧を生み出す



野鳥と樹木の関係

4: 樹林帯は野鳥の食糧を生み出す

吸蜜・・・メジロ、ヒヨドリ

盗蜜・・・スズメ、ホンセイインコ他

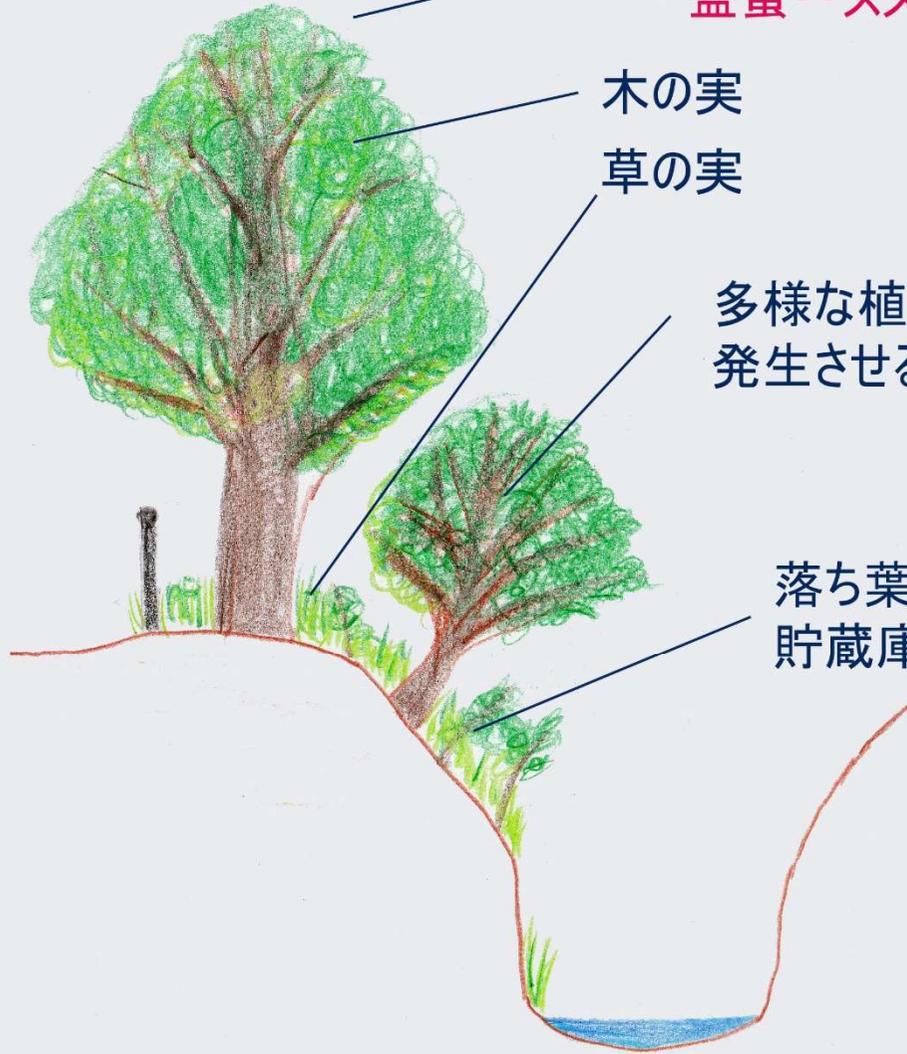
花の蜜

木の実

草の実

多様な植生が多様な昆虫を発生させる

落ち葉だまりは冬の貯蔵庫



ツグミの餌の季節変化



秋の飛来期には木の実がたくさんあり木の実食。地面には降りてこない



年明け頃樹上の実が無くなると地面で餌を探し、落ちていた果実や昆虫を食す



春の飛去前は開けた場所でミミズを捕らえて食べる



多種類あると食べごろの時期がずれる



樹木をサクラ 1 種類にすると、5 月だけサクランボが大量で

それが終わったら鳥が食べる木の実は何も無くなる。

ヤマザクラが成長しても鳥類の多様性は回復しない。

シジュウカラ営巣記録

2020.5.2～2020.5.15



シジュウカラ ♂

2年C組 13番 栗田 昊和

記録の仕方について

まず巣に近づいた鳥が来た時間を書く
次に巣に何が来たのかを書く
シジュウカラの場合、エサはおおまかに何なのか、わからなし
場合は「？」と書く
その他変わったことがあれば書く
♂はオスのこと、♀はメスのことを表す

シジュウカラの雄雌の違い



シジュウカラ♂



シジュウカラ♀

上の写真のようにオスはメスより黒いラインが太い
この黒いラインを「黒いネクタイ」ということがある



シジュウカラ♂



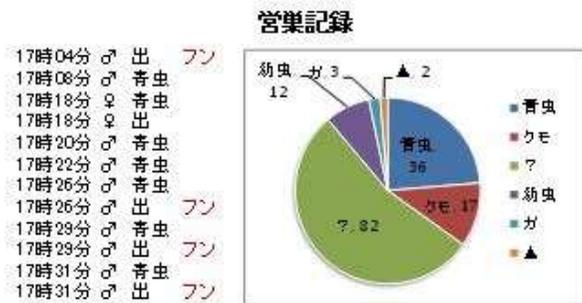
シジュウカラ♀

上の写真のようにオスはお尻まで黒いラインはあるが、
メスはお尻まで黒いラインはない
(上の写真4枚 栗田昊和撮影)

1日の給餌回数

営巣後半(巣立ち前)

1日 200~250回



- 17時04分 ♂ 出 フン
- 17時08分 ♂ 青虫
- 17時18分 ♀ 青虫
- 17時18分 ♀ 出
- 17時20分 ♂ 青虫
- 17時22分 ♂ 青虫
- 17時26分 ♂ 青虫
- 17時26分 ♀ 出 フン
- 17時29分 ♂ 青虫
- 17時29分 ♂ 出 フン
- 17時31分 ♂ 青虫
- 17時31分 ♂ 出 フン
- 17時35分 ♀ ?
- 17時35分 ♀ 出
- 17時36分 ♂ 青虫
- 17時36分 ♂ 出 フン
- 17時40分 ♂ 青虫
- 17時40分 ♂ 出 フン
- 17時53分 ♂ ガ)同じ虫
- 17時57分 ♂ 出 ガ
- 18時00分 ♂ ?
- 18時02分 ♀ ?
- 18時02分 ♀ 出
- 18時02分 ♂ 入
- 18時12分 ♂ ?
- 18時12分 ♂ 出 フン
- 18時22分 ♂ 青虫
- 18時25分 ♂ 青虫
- 18時26分 ♂ 出 フン

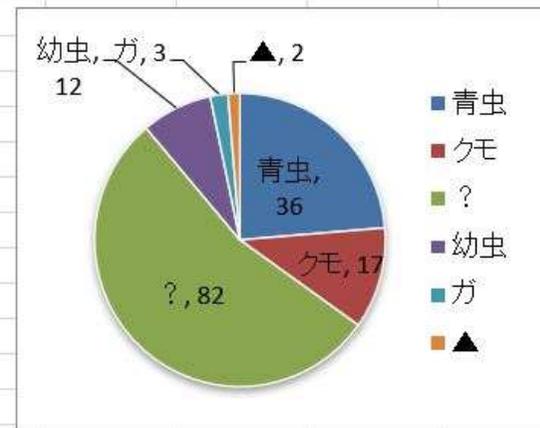
2020.5.11

- 7時54分 ♀ 入
- 7時54分 ♀ 出
- 7時55分 ♂ ?
- 7時56分 ♀ 入
- 7時56分 ♀ 出 フン
- 7時59分 ♂ ?
- 8時00分 ♂ 出 フン
- 8時01分 ♂ ?
- 8時03分 ♂ ?
- 8時04分 ♂ 出 フン
- 8時08分 ♂ ?
- 8時12分 スズメ
- 8時12分 ♀ 青虫
- 8時13分 ♀ 出
- 8時16分 スズメ
- 8時17分 ♀ 入
- 8時17分 ♀ 出 フン
- 8時21分 ♀ 青虫
- 8時21分 ♀ 出 フン
- 8時22分 ♂ 青虫
- 8時22分 ♂ 出 フン
- 8時27分 ♂ 青虫
- 8時29分 ♂ 青虫
- 8時30分 ♂ ?
- 8時35分 ♂ 青虫
- 8時37分 ♀ 入
- 8時37分 ♀ 出 フン
- 8時39分 ♂ 青虫
- 8時42分 ♀ 幼虫
- 8時43分 ♀ 出
- 8時43分 ♂ 青虫
- 8時44分 ♂ ?
- 8時44分 ♂ 出 フン
- 8時46分 ♀ 入
- 8時46分 ♀ 出
- 8時50分 ♂ ?
- 8時50分 ♂ 出 フン
- 8時50分 ♀ 入

5月10日 まとめ

今日はスズメが5回来た。
 今日の巣からのフン出しは51回。
 これまでの2倍近く。
 食べ盛りのヒナはフンを多くする。
 この日オスは113回虫を運んだ。
 メスは39回運んだ。
 虫の内訳は36匹が青虫
 クモが17匹、ガが12匹、▲が2匹
 幼虫が3匹、？が82匹だった。
 ▲はシジュウカラのヒナが
 苦手な虫のようだ。
 親が何度も巣に入れては
 出している
 まとまった▲は同じ虫だ。

営巣記録



判別できた餌の割合

その他幼虫	18%
青虫	53%
クモ	25%
蛾	4%

樹林の下は昆虫が多く小鳥の子育ての場として適している



ヤマガラ幼鳥



シジュウカラ幼鳥



イナガ幼鳥

玉川上水みどりといきもの会議 野鳥調査

玉川上水 4 区間（杉並、三鷹、小金井、小平）の鳥類調査結果

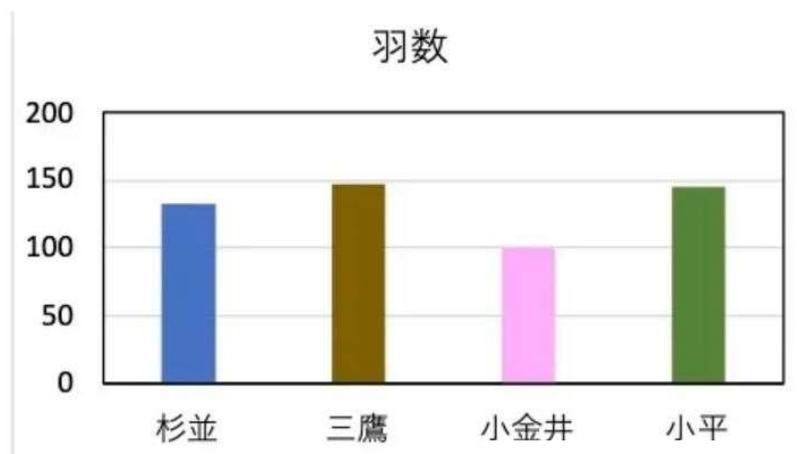


図3 合計羽数の比較

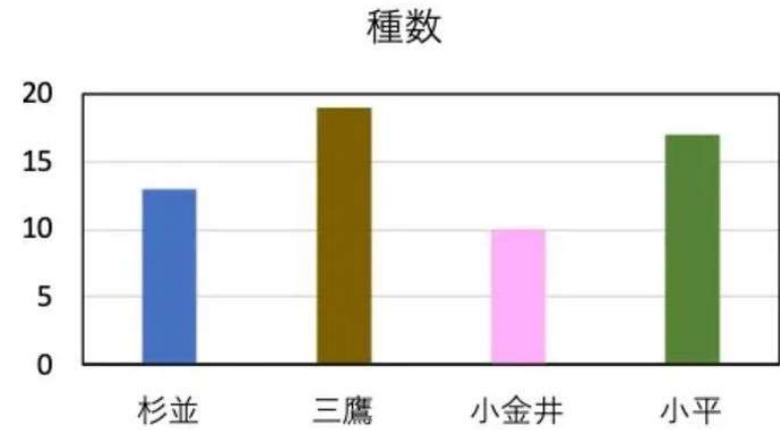


図2 出現種数の比較

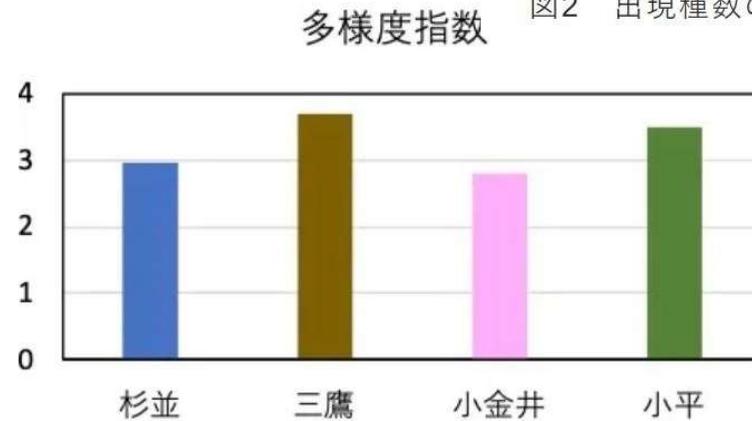


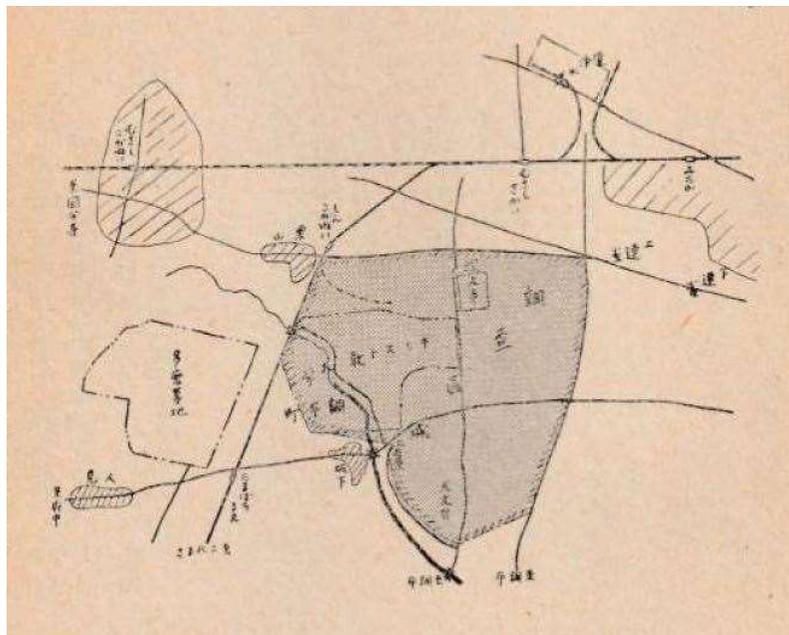
図4 多様度指数の比較

玉川上水周辺の過去と現在



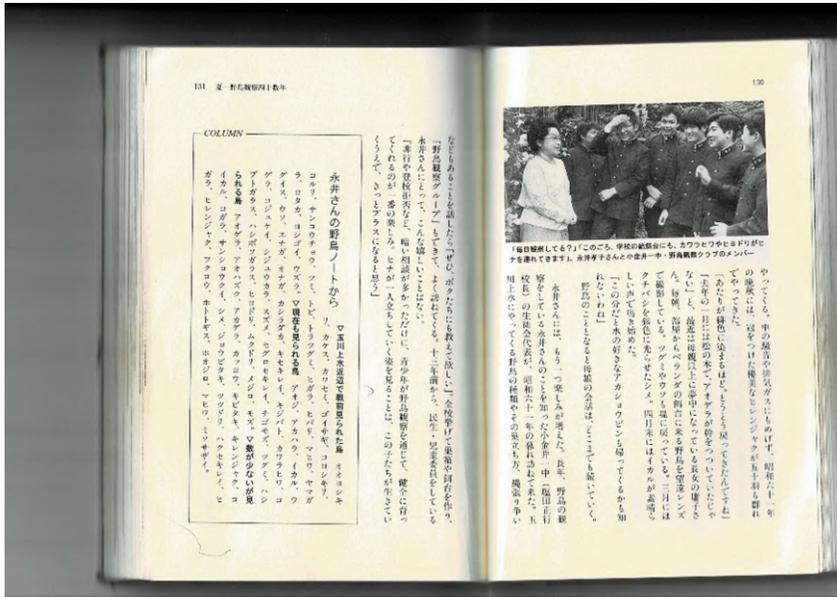
報告団誌（成蹊大学生物部 昭和17年2月）

成蹊大学、三鷹駅、吉祥寺駅の三角形。



野鳥誌（日本野鳥の会 昭和29年5-6月号）

国際基督教大学、西武是政線、野川公園の三角形。



『玉川上水 水と緑と人間の賛歌』

アサヒタウンズ 1991年出版

小金井公園、小金井カントリークラブ、玉川上水
などで 40年間野鳥観察を続けた永井さんの記
録

三つの過去の記録から、戦前戦後に繁殖していた夏鳥

ツバメ、ホトトギス、カッコウ、アカショウビン、サンコウチョウ、チゴモズ、アカモズ、オオヨシキリ、
アオバズク、センダイムシクイ、ヨシゴイ、ササゴイ、ヒクイナ、

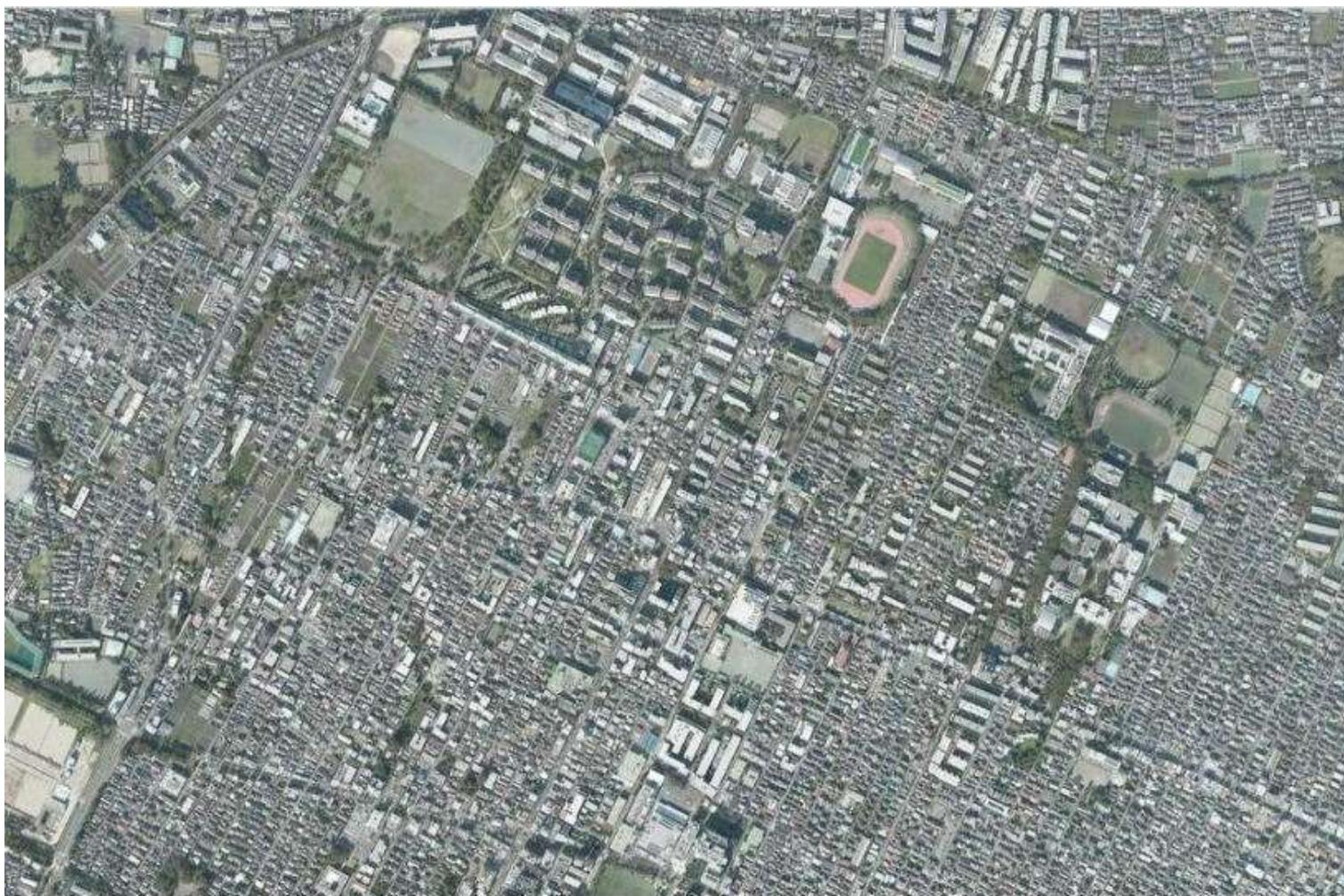
13種

現在毎年繁殖している夏鳥は樹木を必要としないツバメ 1 種のみ





昭和 16 年 成蹊大学～境浄水場



令和3年 成蹊大学～境浄水場

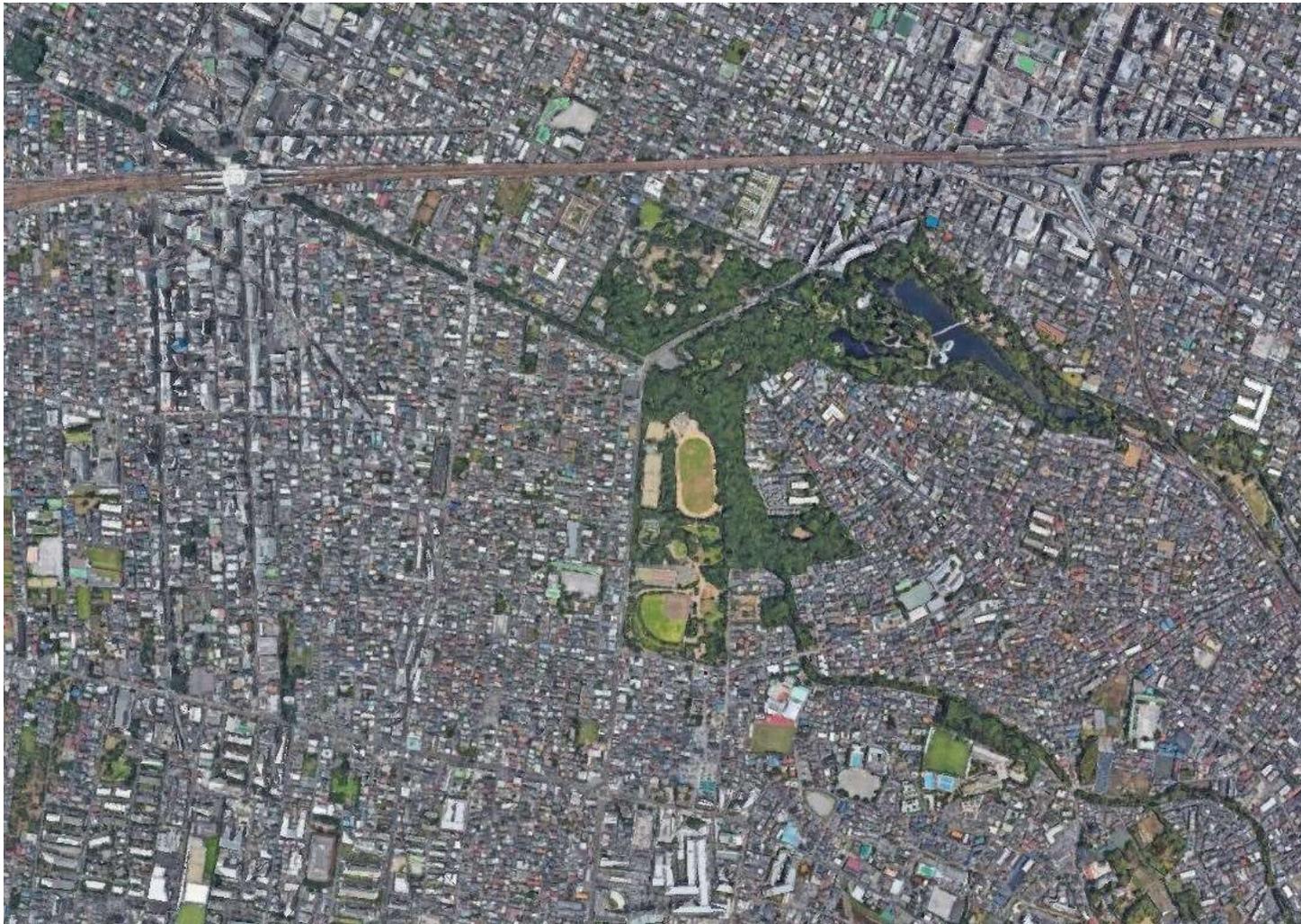
成蹊大学生物部 『報告団誌』 鈴木さんの前書き

(前略) 一般の人々の間には、我々の仕事を以って単に蝶々を追ひかけ廻す事位にしか考へて居ない人が多少ある様であるが之は大きな誤りである。

生物を採集し或は生態を観察する事は生物の有する特質、特性を知って自然の理法を理解し、それによって人類の進むべき方向、持すべき態度を暗示される事すらあるのである。

これら動植物の可憐な形態に接することは、人間の情操的方面をも豊にするのであるから、我々の仕事は科学であると同時に藝術でもあると云ひ得るのである。

私たちはどう進むべきか？



わずかに残った樹林をこれ以上減らしてはならない